

12

業務資料 284

ブリティッシュ・コロンビア州  
移住者動態調査

昭和 49 年 3 月

海外移住事業団

ARY

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 8. 14	801
登録No. 02958	234
	EM

## は し か き

カナダ移住の大綱はアン-sponsored方式であり、この方式で移住した者の動態を把握することは容易でない。しかし、逆に、このような状況下にあるからこそ、移住者の実態をより明確に把握しておかなければ、カナダ移住を的確に推進せしめることは困難でもある。

このため当事業団では昭和47年度事業とし、日本人が多数在住するオンタリオ州で新移住者（戦後移住者）を対象に動態調査を実施し、つづいて48年度事業とし、カナダで2番目に多く日本人移住者が在住するB・C・州（ブリティッシュ・コロンビア州）において本調査を実施した。

本調査はトロント駐在員事務所がB・C・州移住者に対し行なったアンケート方式による動態調査用紙を回収し、本部で若干の考察を加えたものである。

業務資料第240「オンタリオ州移住者動態調査」を比較参照の上、移住希望者に対する相談業務資料として十分研究、活用されたい。

なお、本調査にご協力下さった関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

昭和49年3月

海外移住事業団

振興部長

JICA LIBRARY



1035624[4]

## 目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の方法	1
(2) 分類、集計の方法	1
(3) B. C. 州移住者アンケート回答者の傾向	6
2. 調査結果の集計	33
3. 調査結果の考察	33
(1) 設問における例外的事例	34
(2) 調査結果からみた B. C. 州移住者と オンタリオ州移住者の差異点と類似点	34
4. 結 び	39
(参考) アンケート様式	42

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の方法

ア、本調査は 1973 年 9 月より 1974 年 1 月までの 5 カ月間に行なった。

イ、当事業団トロント駐在員事務所を連じ、一定の調査用紙(アンケート方式、後記様式)を B. C. 州在住の日本人移住者(戦後移住者)に郵送で配布し、回収した。

ウ、標本抽出の方法は無作為抽出方式をとった。

エ、抽出源は、日系人リスト、移住相談所訪問者、私設職業あっせん所の求取者、新移住者の会加入者、カナダ移住トレーニング・コース受講者、日本向一時帰国旅行者、日系会社勤務移住者、総領事館資料(在留届、婚姻届、出生届)その他スポーツ、趣味、交友等多種多様なグループである。

#### オ、調査件数

・調査用紙配布総数	489 部	・有効回収部数	211 部
・宛先人移転先不明による返送	75 部	・無効回収部数	5 部
・有効配布部数	414 部	・有効回収率	51.3%

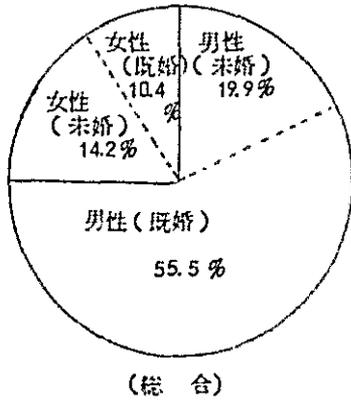
#### (2) 分類、集計の方法

本調査は B. C. 州移住者を対象としたものであり、昨年度行なったオンタリオ州移住者の調査と比較検討しやすくするため、昨年度と同一のアンケート様式をもちいた。また、分類、集計においても昨年度と同様な形式をとり、オンタリオ州移住者と B. C. 州移住者との類似点をみることにより、日本人カナダ移住者の傾向を考察し、差異点をみることにより、カナダ国内での地域差からくる移住者の生活の差を明確にするよう努めた。なお、アンケート項目によっては、単純集計のみにとどまらず、職種別、未婚婚別、在加年数別等も考察に入れ、多角的な集計分析を行なった。

#### (3) B. C. 州移住者アンケート回答者の傾向

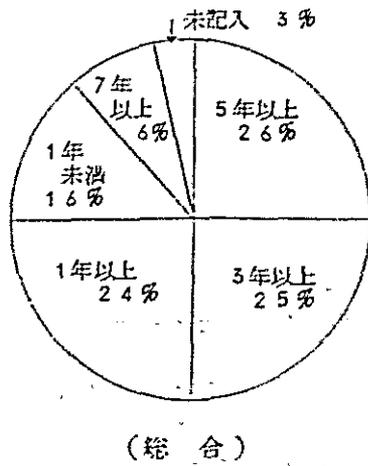
男女別では男性 75.4%、女性 24.6%。未婚・既婚別では未婚 34.1%、既婚 65.9%。在加年数は 0~3 年が 43%、3 年以上が 57%。学歴別では高卒 43.4%、短大卒以上が 44.3%。国籍は 93% が日本となっている。既婚者のうち過半数の者は渡加後結婚している。職種では特殊技能工(28%)、サービス系(24%)、事務系(15%)、専門・技術者(10%)が主な職種である。内訳は次表の通り。

表1. 未・既婚・年齢・性別



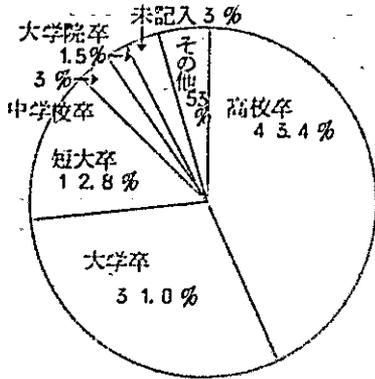
年齢	男性			女性			総計
	未婚	既婚	計	未婚	既婚	計	
20才以下	6		6 (3.8%)				6 (3%)
21~25	15	5	20 (12.6%)	7	2	9 (17.0%)	29 (14.0%)
26~30	15	38	53 (33.3%)	11	7	18 (35.0%)	71 (34.0%)
31~35	4	40	44 (27.7%)	6	5	11 (21.0%)	55 (26.0%)
36~40	1	26	27 (17.0%)	5	1	6 (12.0%)	33 (15.0%)
41才以上		7	7 (4.3%)	4		4 (7.5%)	11 (5.0%)
未記入	1	1	2 (1.3%)	2	2	4 (7.5%)	6 (3.0%)
計	42 (19.9%)	117 (55.5%)	159 (75.4%)	30 (14.2%)	22 (10.4%)	52 (24.6%)	211

表2. 在加年数・性別



在加年数	男性	女性	計	(%)
7年以上	12	1	13	(6)
5年以上	42	12	54	(26)
3年以上	42	11	53	(25)
1年以上	36	16	52	(24)
1年未満	24	9	33	(16)
未記入	3	3	6	(3)
計	159	52	211	(100)

表3. 最終学歴・性別

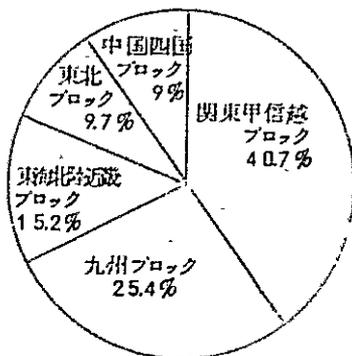


(総合)

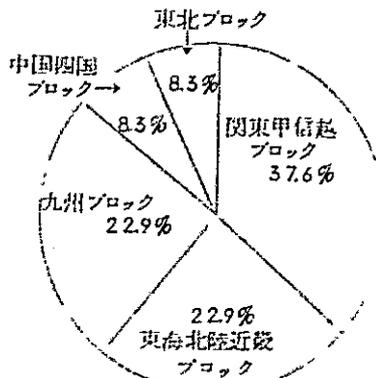
学歴	性別		計(%)	
	男	女	計	(%)
大学院卒	3		3	(1.5)
大学卒	54(4)	9	63(4)	(31.0)
短大卒	14	13	27	(12.8)
高校卒	67(1)	23	90(1)	(43.4)
中学卒	5	1	6	(3.0)
その他	8	3	11	(5.3)
未記入	3	3	6	(3.0)
計	159	52	211	(100.0)

※( )内は中途退学者

表4. 移住者出身県別



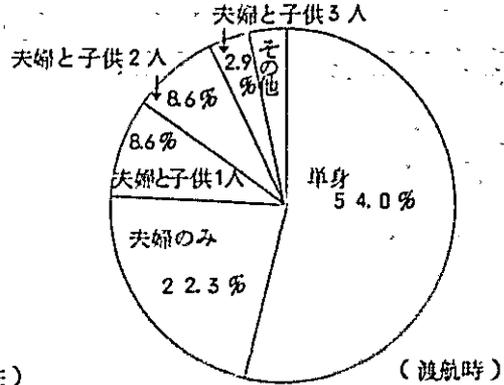
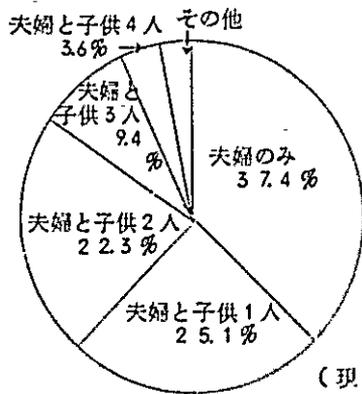
(男)



(女)

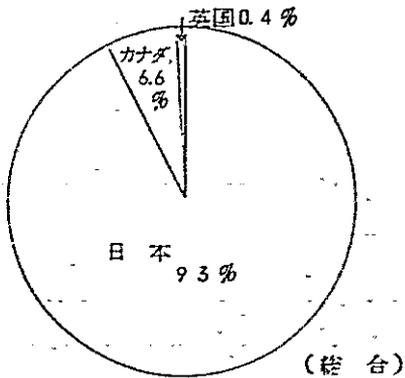
男			女		
1	東京	25	1	東京	9
2	鹿児島	12	2	神奈川	6
3	福岡	11	3	沖縄	5
4	大阪	10	4	京都	3
5	神奈川	8	5	大阪	2

表 5. 既婚者家族構成



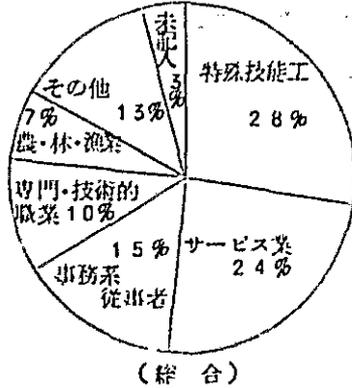
家族構成	性別		現 在			渡 航 時		
	男	女	男	女	計	男	女	計
単 身						6 4	1 1	75 (54.0%)
夫婦のみ	3 9	1 3	52 (37.4%)	2 6	5	31 (22.3%)		
夫婦と子供1人	3 2	3	35 (25.1%)	1 1	1	12 ( 8.6%)		
夫婦と子供2人	2 8	3	31 (22.3%)	1 0	2	12 ( 8.6%)		
夫婦と子供3人	1 3		15 ( 9.4%)	4		4 ( 2.9%)		
夫婦と子供4人以上	3	2	5 ( 3.6%)			1	1 (0.7%)	
その他の家族		1	1 (0.7%)			1	1 (0.7%)	
未 記 入	2		2 (1.5%)			1	3 (2.2%)	
合 計	1 1 7	2 2	1 3 9	1 1 7	2 2	1 3 9		

表 6. 国 籍



国籍	性別		総 計
	男	女	
日 本	14 5	5 1	196 (93%)
カナダ	1 4		14 (6.6%)
英 国		1	1 (0.4%)
計	1 5 9	5 2	211

表7 職業別、性別



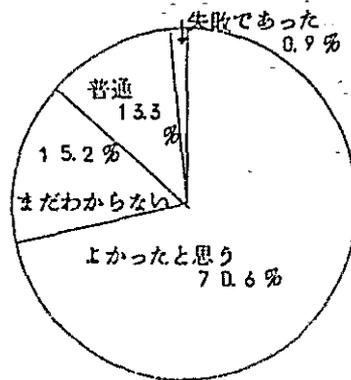
職業別	男		女		総計
	人数	%	人数	%	
1. 農・林・漁業従事者	12	7.5			12 (7%)
2. 事務系従事者	15	9.4	17	32.7	32 (15%)
3. 専門・技術系職業	18	11.3	4	7.7	22 (10%)
4. 特殊技能工など	57	35.8	3	5.8	60 (28%)
5. サービス業	37	23.3	14	26.9	51 (24%)
6. その他	13	8.2	14	26.9	27 (13%)
未記入	7	4.5			7 (3%)
合計	159	100.0	52	100.0	211

職業別分類については、次のとおりとした。

1. 農業、林業、漁業従事者  
農夫、庭師、果樹栽培者、漁業
2. 事務系従事者  
経理士、税関吏、事務員、秘書、会社役員、書類管理職、キーパンチャー、コンピューター、プログラマー、レストラン・マネージャー、タイピスト
3. 専門的技術的職業:  
  - (1) 技術的従業者
  - (2) 教授および教師
  - (3) 医療関係従事者
 弱電技術者、電子技師、製図工、研究員、パイロット、ヘリコプター操縦士、室内装飾、歯科技工士、看護婦、医師、ピアノ調律士
4. 特殊技能工、生産工程従業者および単純労働者  
自動車整備士、テレビ修理、機械工、旋盤工、タイル工、溶接工、大工、家具職人、菓子職人、手織業、洋服師、冶金技師、機械据付け工
5. サービス業  
美容師、理容師、調理師、ウェイター、ウェイトレス、セールスマン、レストラン、旅行代理店従業者、喫茶店、クリーニング、ホテル勤務、海務監督、公園管理
6. その他  
牧師、僧侶、学生、主婦、管理人、無職

2. 調査結果の集計

1. カナダに移住して来てよかったと思いますか。(在加年数、性別)



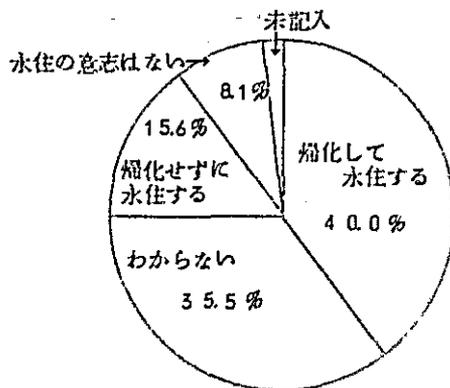
(総合)

区分	性別		男性						女性						総計		
	職業別		7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満		未記入	計
ア、よかったと思う			10	35	30	25	12	2	114 (71.7%)	1	10	11	6	5	2	35 (67.3%)	149 (70.4%)
イ、普通			2	4	7	7	1		21 (13.2%)		1	3	2	1		7 (13.5%)	28 (13.3%)
ウ、まだわからない				2	4	4	11	1	22 (13.8%)		1	1	5	2	1	10 (19.2%)	32 (15.2%)
エ、失敗であった				1	1				2 (1.3%)							2 (0.9%)	2 (0.9%)
合計			12	42	42	36	24	3	159	1	12	15	13	8	5	52	211

大半の者は移住してよかったと思ひ、失敗であったと考える者は1%ときわめて少ない。在加年数が長くなるほどこの傾向は強くなっており、男女別の差異はほとんどないが、女性の場合、失敗であったと答えた者はゼロであった。

大半の者がカナダへ移住してよかったと思つている。

2. カナダに永住する希望がありますか。 (在加年数、性別)



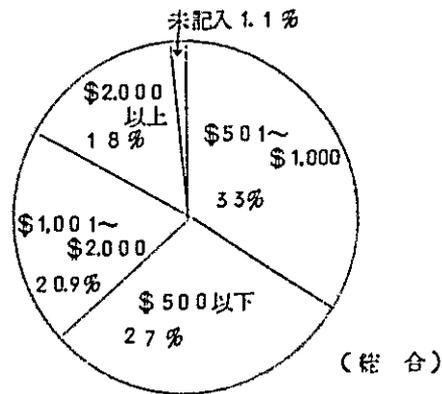
(総合)

区分	性別 職業別	男性							女性							総計
		7年以上	5年!	3年!	1年!	1年未満	未記入	計	7年以上	5年!	3年!	1年!	1年未満	未記入	計	
ア、帰化して永住する		8	24	16	10	5	1	64 (40.3%)		8	4	3	5		20 (38.5%)	84 (40.0%)
イ、帰化せずに永住する		2	7	8	4	2		23 (14.5%)	1	1	3	3		2	10 (19.2%)	33 (15.6%)
ウ、わからない		2	7	14	20	11	1	55 (34.6%)		3	6	7	3	1	20 (38.5%)	75 (35.5%)
エ、永住の意志はない			3	4	2	6		15 (9.4%)			2				2 (3.8%)	17 (8.1%)
未記入			1					2 (1.2%)							2 (0.8%)	2 (0.8%)
合計		12	42	42	36	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211

帰化するしなないはともかく、永住の意志があると答えた者が55.6%、永住の意志のない者は8.1%と少ない。永住の意志のない者は男女別では男性に、在加年数では1年未満に比較的多い。

過半数が永住を意志し、しかも在加年数が長くなるほど帰化を望んでいる。1年以上在加すると、カナダの生活にも馴れるのであろうか「永住の意志がない」と答えるものはきわめて少なくなる。「わからない」と答えるものが比較的多いことは一つにはカナダ移住の気楽さ(すぐに日本に帰ってこられる)が起因しているのではないだろうか。

3. 渡航時の携行金はどの位でしたか。 (未・既婚別、性別)

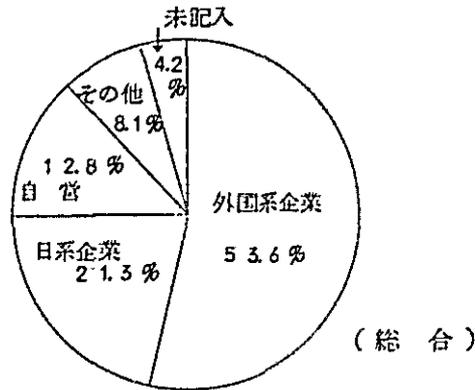


区分	性別		計	性別		計	総計
	未既婚別	既婚		未既婚別	既婚		
ア \$500以下	42	9	51 (32.1%)	6		6 (11.5%)	57 (27.0%)
イ \$501~\$1,000	38	12	50 (31.4%)	19	1	20 (38.5%)	70 (33.0%)
ウ \$1,001~\$2,000	18	12	30 (18.9%)	11	3	14 (27.0%)	44 (20.9%)
エ \$2,000以上	10	18	28 (17.6%)	3	7	10 (19.2%)	38 (18.0%)
未記入				2		2 (3.8%)	2 (1.1%)
合計	108	51	159	41	11	52	211

全体でみると携行金\$1,000以下が60%。男性は女性に比べ携行金は少ないようだ。既婚者は未婚者より多い。渡加前における就職先の決定の有無で携行金の額も異なるであろう。

いわゆるカナダ移住の場合は「アン spons ード移住」が普通であり、就職先を決定しないで移住する場合はやはり、できるだけの携行金を持参するに越したことはない。単身の場合は当座の生活資金として\$1,000、既婚者の場合は\$1,500は持って行きたい。

4. 現在の勤務先について (在加年数、性別)

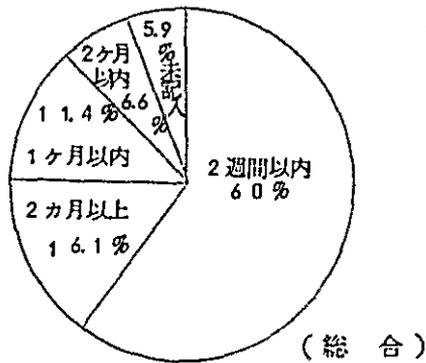


職業別 区分	男性							女性							総計
	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	
ア、外国系企業	6	27	27	15	15	1	91(57.2%)	6	10	4	2		22(42.3%)	113(53.6%)	
イ、日系企業	3	4	6	12	6	1	32(15.2%)	2	4	4	2	1	13(25.0%)	45(21.3%)	
ウ、自営	3	8	7	2	1	1	22(13.8%)	2			1	2	5(9.6%)	27(12.8%)	
エ、その他		1	1	3			5(3.1%)	1	2	1	4	2	12(23.1%)	17(8.1%)	
未記入		2	1	4	2		9(10.7%)							9(4.2%)	
合計	12	42	41	36	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211

約半数強の人が外国系企業に勤めているが、日系企業21.3%、自営12.8%と意外に多い数字を示している。日系企業に勤める者は男女別では女性に多く、在加年数では3年未満の者に比較的多い。逆に男性は外国系企業に勤める者が多くなっている。「その他」は主婦、学生、大学教授等になっている。

日系企業があまり多くないカナダにおいて日系企業21.3%は意外に多い数字である。これは語学のハンディ、習慣の違い、友人知人の紹介による就職等が左右しているものと思われる。また歴史の浅いカナダ移住にあって、自営12.8%は多く、日本に比べ、独立しやすいカナダの経済状態(後進性等)がうかがわれる。

5. カナダで最初の仕事につくまでどの位かかりましたか。(職業別、性別)



性別 職業別 期間	男 性							女 性					総 計
	1	2	3	4	5	未 記 入	計	2	3	4	5	計	
ア、2週間以内	10	6	47	26	7	5	101 (63.5%)	9	4	9	3	25 (48.1%)	126 (60.0%)
イ、1ヶ月以内		2	11	5	1		17 (11.0%)	4			3	7 (13.5%)	24 (11.4%)
ウ、2ヶ月以内		2	8	3	1		14 (8.8%)						14 (6.6%)
エ、2ヶ月以上	2	5	8	5	2	2	24 (15.1%)	3	2	3	2	10 (19.2%)	34 (16.1%)
未記入			1		2		3 (1.6%)	1	1	1	7	10 (19.2%)	13 (6.2%)
合 計	12	15	75	37	13	7	159	17	7	13	15	52	211

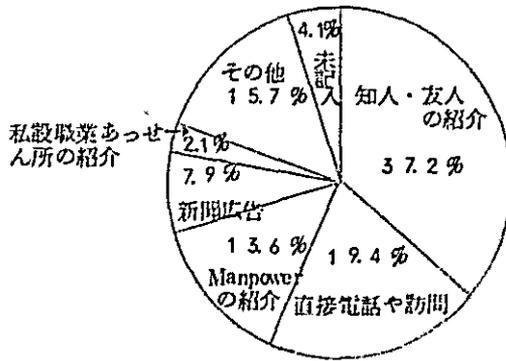
※ 職業欄の番号はP. 5の職業分類と次のとおり一致する。

1-1、2-2、3-3-4、4-5、5-6、

2週間以内が60%と圧倒的に多いが、これは一つには渡航前にかなり多くの者が就職先を決定しているためと思われる。職業別では「特殊技能工等」(注、職業分類)が渡加後比較的早い期間に決めており、「事務系」は比較的決定が遅い。男女別の差異はほとんどみられない。

2週間以内に決めるものが多いことは、友人、知人に頼んだりして、渡航前に既に就職先を決めているケースが多いことにも起因している。また逆に2ヶ月以上が16.1%と比較的多いことも十分考えておく必要がある。

6. 仕事はどの様にして見つけれましたか。 (職类别、性別)

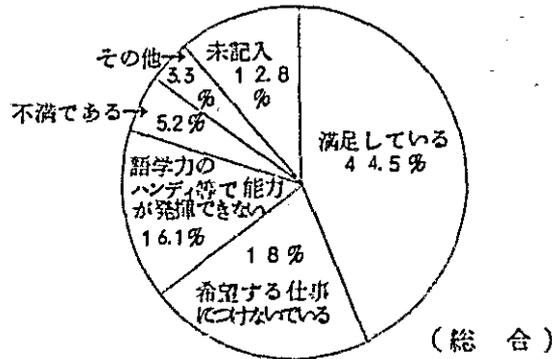


区分	性別		男性					女性					総計		
	職类别		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4		5	計
ア、Manpower Centerの紹介			2	1	15	4	2	1	25(14.3%)	2	3		3	8(11.9%)	33(13.6%)
イ、新聞広告			1	1	11		1		14(8.0%)	2		1	2	5(7.5%)	19(7.9%)
ウ、直接電話訪問して			2	5	15	10	3	3	38(21.7%)	2	4	2	1	9(13.4%)	47(19.4%)
エ、知人・友人の紹介			7	7	31	16	3	2	66(37.7%)	12	2	4	6	24(35.8%)	90(37.2%)
オ、私設職業あっせん所の紹介					1	1			2(1.1%)	2			1	3(4.5%)	5(2.1%)
カ、その他			1	2	4	7	3	1	28(16.0%)	4	2	1	3	10(14.9%)	38(15.7%)
未記入							1	1	2(1.2%)				8	8(12.0%)	10(4.1%)
合計			13	16	87	39	13	7	175	24	11	8	24	67	242

友人・知人の紹介が1番多く37.2%、続いて直接交渉、マンパワーセンター(M.C.)の紹介の順。男女別、職类别ではこれといった顕著な傾向はみられない。

M.C.の紹介で就職先を探したというものが少ないということは、やはり積極的に自分自身で就職先を探さなければ、中々見つからないという事であり、日本以上にビジネスの厳しさもあり、積極的に自分自身を売り込む姿勢の大切さがうかがわれる。

7. 現在の仕事に満足しておられますか。(職業別、性別)



区 別	性 別		男 性					女 性					総 計	
	職 業 別		1	2	3	4	5	未 記 入	計	2	3	4		5
ア、自分の能力が充分に発揮でき、満足している	6	8	42	21	1	1	79(50.0%)	6	1	7	1	15(28.8%)	94(44.5%)	
イ、希望する仕事であるが語学のハンディ等で能力が発揮できない			3	17	5	1	1	27(17.0%)	1	3	1	2	7(13.5%)	34(16.2%)
ウ、希望する仕事につけない	3	2	7	5	3	4	26(16.4%)	6	1	4	1	12(23.1%)	38(18.0%)	
エ、自分の希望する仕事につけそうになく大いに不満である。	1	1	2	3	1	1	9(5.7%)	1		1		2(3.8%)	11(5.2%)	
オ、その他	1	1	2	1			5(3.1%)	1			1	2(3.8%)	7(3.3%)	
未 記 入	1		3	2	7		13(8.1%)	2	2		10	14(27.0%)	27(12.8%)	
合 計	12	15	75	57	13	7	159	17	7	13	15	52	211	

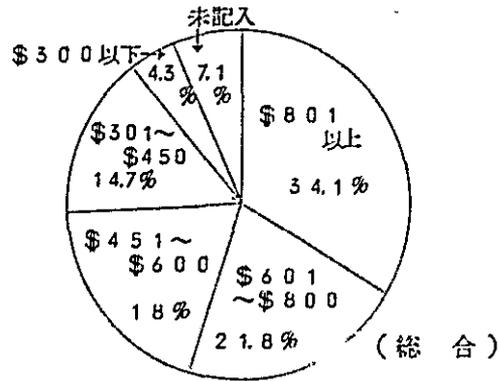
在加年数によっても若干、差異が出てくるものと思われるが、「満足している」と答えているものが44.5%、続いて「希望の仕事につけない」、「語学のハンディがある」の順。

男女共、『サービス業』従事者には「満足している」と答えたものがきわめて少ない。「その他」は仕事は生活のためであり、満足、不満足も無しと考えるものである。

日本との比較で考えてみた場合、この違いは「語学のハンディ」の項だけであろう。職種によって語学のしめるウェイトが違ってくるであろうが、やはり外国で仕事をする場合、語学力の重要さがうかがわれる。

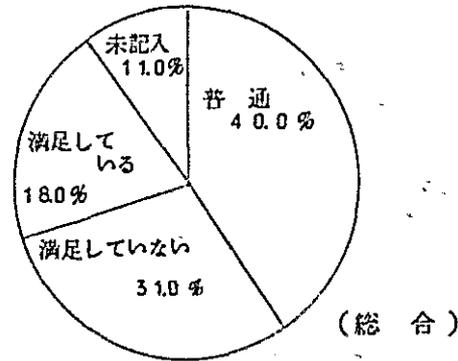
8. 現在の収入は月額にしてどの位ですか。 (職業別、性別)

(1)



区分	性別		男性					女性					総計		
	職業別		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4		5	計
ア、\$300以下							1	1	2(1.3%)	2	1	2	2	7(13.5%)	9(4.3%)
イ、\$301~\$450			3	1		7	5		16(10.1%)	5	2	6	2	15(28.8%)	31(14.7%)
ウ、\$451~\$600			2	3	7	9	2	2	25(15.7%)	8	1	4		13(25.0%)	38(18.0%)
エ、\$601~\$800			3	2	27	8		1	41(25.8%)	2	2	1		5(9.6%)	46(21.8%)
オ、\$801以上			4	9	41	13	1	3	71(44.7%)				1	1(1.9%)	72(34.1%)
未記入							4		4(2.4%)	1		10		11(21.2%)	15(7.1%)
合計			12	15	75	37	13	7	159	17	7	13	15	52	211

8. (2)

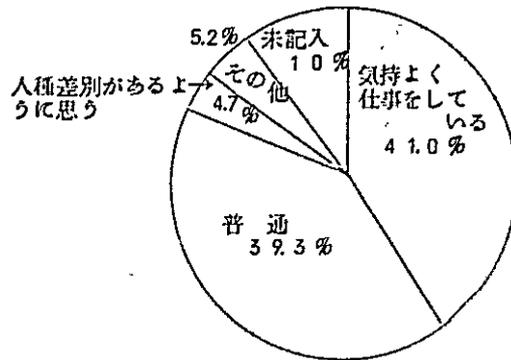


区分	性別		男性					女性					総計	
	職業別		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4		5
ア、満足している	4	3	13	8	1			29 (18.2%)	5	1	2	1	9 (17.3%)	38 (18.0%)
イ、普通	4	7	38	13	2	2		66 (41.5%)	6	4	6	2	18 (34.6%)	84 (40.0%)
ウ、満足していない	2	5	23	15	4	5		54 (34.0%)	5	1	5	1	12 (23.1%)	66 (31.0%)
未記入	2		1	1	6			10 (6.3%)		1		11	13 (25.0%)	23 (11.0%)
合計	12	15	75	37	13	7		159	17	7	13	15	52	211

- (1) 全体の34%、男性の45%は\$800以上。男性では\$600以上が70%を占め、女性では\$300~600が50%をしめている。職種別ではサービス業の収入が比較的少ない。
- (2) 「普通」40%、「満足していない」31.3%。やはり、収入との関係もあり、『サービス業』従事者に「満足している」ものがきわめて少ない。未記入には主婦が多く含まれている。

語学力のハンディを技術力でカバーしている姿がうかがわれる。やはり、語学力のウェイトが高い職種の者に「不満足」が多く、語学力のウェイトの少ない職種の者は「満足」が多い。収入額は支出額と照し合せて考察してみても、日本の生活に比べ、大分余裕があるようだ。

9. 職場での人間関係はいかがですか。 (性別)

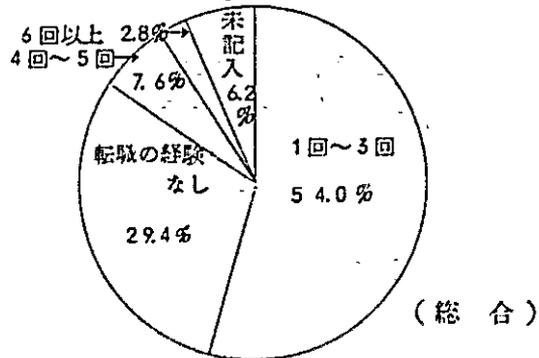


区 分	性 別		女 性		総 計
	男 性	女 性	人 数	率	
ア、気持ちよく仕事をしている	70	44.0	16	30.8	86 (41.0%)
イ、普通	62	38.9	21	40.4	83 (39.3%)
ウ、人種差別があるように思う	9	5.7	1	1.9	10 (4.7%)
エ、その他	9	5.7	2	3.8	11 (5.0%)
未 記 入	9	5.7	12	23.1	21 (10.0%)
合 計	159		52		211

「普通」、「気持ちよく」が全体で80%と、一般的には気持ちよく仕事をしているようだ。「人種差別があるように思う」は男性で5.7%、女性で2%と極めて少ない。「その他」として他国の人との感覚のズレ、能力差よりくるねたみ、日系企業に勤めている場合には、日本的な悪い習慣がみられると、している。

職場環境により差異があるように思われるが、総じて、職場での人間関係はうまくいっているようだ。やはり、カナダは移住者の国である。「あいつは気に入らぬヤツだ」、「差別されている」という感情は日本にいても起こり得ることであろうし、人種差別はまずないと言いきれるのではないだろうか。しかし、反面、日本人の力がいまだ微力であるため、表面化しないだけで強力になれば……、といった見方もある。そして、差別感といったものではないが、風俗・習慣等の違いよりくる違和感もちよっとしたところで頭をもたげているようである。

10. カナダに来てから今までに何度職場をかわりましたか。(在加年数、性別)



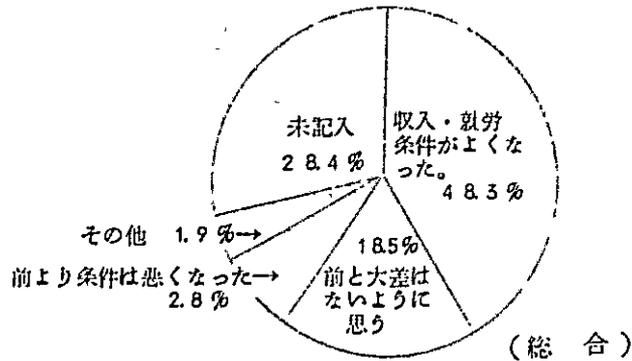
区分	性別						計	性別						計	総計	
	男		性		女			性		女		性				
職業別	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	総計	
ア、転職の経験はない	3	11	8	10	12	1	45(28.5%)							17(32.7%)	62(29.4%)	
イ、1回～3回	6	26	28	20	11	2	93(58.5%)							21(40.1%)	114(54.0%)	
ウ、4回～5回	2	4	4	3			13(8.2%)							3(5.8%)	16(7.6%)	
エ、6回以上	1	1	2				4(2.5%)							2(3.8%)	6(2.8%)	
未記入						3	1	4(2.5%)	1		1	3	2	2	9(17.3%)	13(6.2%)
合計	12	42	42	36	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211	

転職の経験はゼロ回29.4%、1～3回54%。転職の回数が在加年数とあまり関係がないところをみれば、渡加初期の頃に転職が多く、その後はあまり転職しないということであろう。

カナダにおいては転職は日常的なことからであるといわれているが、転職を経験していないものも、かなりおり、また、転職回数が在加年数に関係がないということは、ある程度、同一の職場におれば、転職が少なくなるということが考えられる。やはり、転職の多いカナダにおいても、職場内での信用が生まれ、実力が発揮出来、認められれば転職はあまりしないということであろう。同一職場に1～2年おれば、落ち着くケースが多いようだ。また、転職の回数が在加年数とあまり関係がないという事は、移住初期に転職が多いという事であろうし、まず取り合えず希望の職種ではないが、就職先を決め、目鼻がついた時点で、希望職種へ転職するケースであろう。

11. 現在の仕事に就かれたとき、前の仕事と比べていかがでしたか。

(職業別、性別)



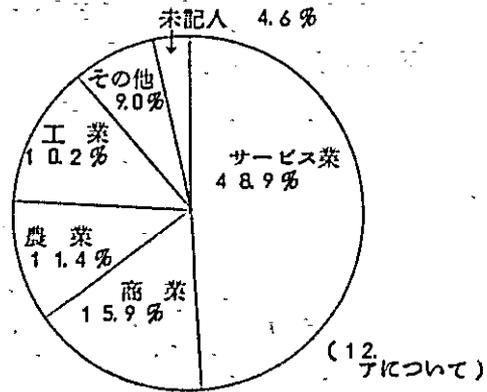
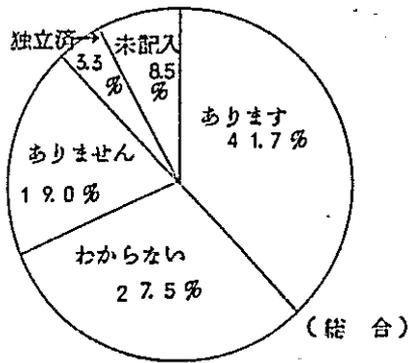
区分	性別		男性					女性					総計		
	職業別	計	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4		5	計
ア、収入や就労条件がよくなった		79(49.7%)	8	7	49	12		3	11	3	8	1		23(44.2%)	102(48.3%)
イ、前と大差ないように思う		30(18.9%)	1	5	9	14		1	5	2	1	1		9(17.4%)	39(18.5%)
ウ、前より条件は悪くなった		5(3.1%)		1		1	2	1	1					1(1.9%)	6(2.8%)
エ、その他		3(1.9%)			2	1							1	1(1.9%)	4(1.9%)
未記入		42(26.4%)	3	2	15	9	11	2		2	4	12		18(34.6%)	60(28.4%)
合計		159	12	15	75	37	15	7	17	7	13	15	5	2	211

転職後「収入就労条件がよくなった」が50%弱である。「その他」は自営、転職経験なし。

総じて転職により就労条件はよくなっているが、転職により就労条件がよくなる職種とあまり変わらない職種があるようだ。男性の場合「農・林・漁業従事者」「専門的技術的職業」はよくなり、「事務系」、「特殊技能工等」はあまり変わらないようだ。

12. 将来、独立の計画はありますか。

(在加年数、性別)

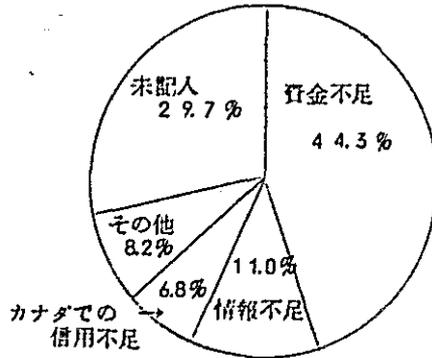


職業別 区分	男性						女性						総計		
	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満		未記入	計
ア、あります	3	21	22	20	11	2	79 (50.0%)	3	4	2				9 (17.3%)	88 (41.7%)
a 農業			4	4	1		10								10
b 工業			1	2	4	2	9								9
c 商業			5	6	1	1	13			1			1	14	
d サービス業	3	9	7	10	9		38	2	2	1			5	43	
e その他		1	3	2			6		2				2	8	
未記入		1		2			3	1					1	4	
イ、わからない	5	10	10	10	9		44 (27.7%)	2	4	3	4	1	14 (27.0%)	58 (27.5%)	
ウ、ありません	2	4	4	5	4		19 (11.9%)	5	7	6	3		21 (40.3%)	40 (19.0%)	
独立済	2	3	1			1	7 (4.4%)							7 (3.3%)	
未記入			4	5	1		10 (6.0%)	1	2	2	1	2	8 (15.4%)	18 (8.5%)	
合計	12	42	42	36	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211

男性の50%は独立を希望し、独立希望なしは12%弱。女性の場合はその逆の傾向がある。「わからない」が全体で27.5%と高い数字を示している。在加年数にはあまり関係はない。独立希望職種はレストラン、自動車整備工場が多い。

日本に比べ、独立を希望している者が多く、(4)の項目でも示しているごとく歴史が浅いわりには独立済の者も意外と多い。

13. 現在、独立するとして何が一番問題になりそうですか。(職業別、性別)



区分	性別		男 性					女 性					総 計		
	職業別		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4		5	計
ア、資金不足			8	8	33	24	3	5	81(49.1%)	5	2	4	5	16(29.6%)	97(44.3%)
イ、カナダでの信用不足				1	7	3	3		14(8.5%)	1				1(1.6%)	15(6.8%)
ウ、カナダのこの方面での情報不足			2	1	10	6	1	1	21(12.7%)	1	1		1	3(5.6%)	24(11.0%)
エ、その他				2	8	2	2		14(8.5%)	1	1	2		4(7.4%)	18(8.2%)
未 記 入			3	3	17	6	5	1	35(21.2%)	9	4	7	10	30(55.8%)	65(29.7%)
合 計			13	15	75	41	14	7	165	17	8	13	16	54	219

資金不足が44.3%で一番多い。「その他」は技術力不足、語学力不足、独立資金等である。

やはり、カナダで独立するには相当の金額が必要であり、単に在加年数が多いから資金が蓄るといふことでもなさそうである。日本に比べ、カナダは独立しやすいといっても、やはり独立することは容易なことではない。

14. 取得したい資格・免許

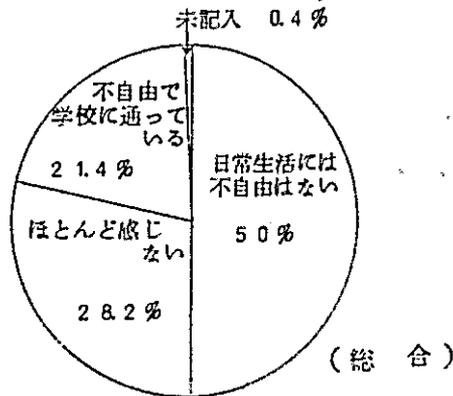
資格・免許を取得したいとする者は男性より女性に多い(女性の約3分の2希望)。

主な取得したい資格・免許は

<男 性> 大学卒業資格、公認会計士免許、自動車整備士免許、歯科技工師免許、スキー教師免許、無線通信士免許、技術者資格

<女 性> キーパンチャー資格、自動車運転免許、フラワーデザイナー資格、教職員免許、正看護婦免許、美容師免許、薬剤士免許、図書司書資格

15. 生活で英語の不自由は感じますか。 (在加年数、性別)

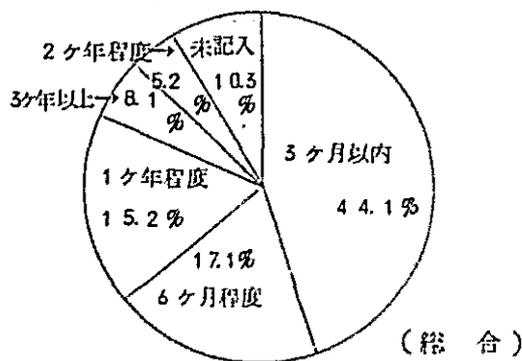


区分	性別		男 性						女 性						総 計		
	職 業 別		7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満		未記入	計
ア、ほとんど感じない			6	17	9	8	4	1	45(26.8%)	1	5	4	3	3	1	17(32.7%)	62(28.2%)
イ、日常生活には不自由はない			6	25	29	17	9	2	88(52.4%)	6	9	4	2	1	22(42.3%)	110(50.0%)	
ウ、不自由で学校に通っている					13	11	11		35(20.6%)	1	1		7	3		12(23.1%)	47(21.4%)
未 記 入														1	1(1.9%)	1(0.4%)	
合 計			12	42	51	36	24	3	168	1	12	14	14	8	3	52	220

「ほとんど感じない」28.2%、「日常生活には不自由はない」50%とをプラスすれば全体で80%弱と大部分の者は日常生活での英語の不自由さを感じていない。一方、在加年数の短いものほど「不自由で学校に通っている」ものが多いが、それでも全体では21.4%。在加5年で100%近くの者が英語の不自由さを感じていない。

在加1年未満の者の半数及び在加1～3年の者の約3割は働きながら、英語の学校に通っており、語学をマスターする難しさと、その努力の程がうかがわれる。

16. 職場での英語に慣れるまでどの位かかりましたか。(職業別、性別)

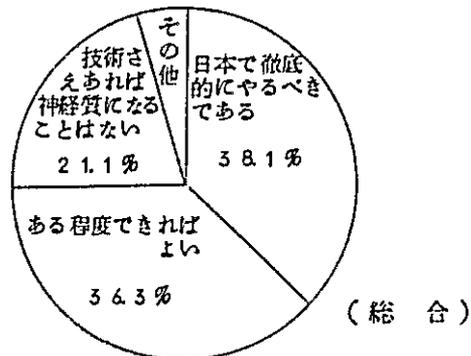


性別 職業別 区別	男 性						女 性					総 計	
	1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4	5		計
ア、3ヶ月以内	4	6	29	16	8	6	69(43.4%)	10	3	6	5	24(46.2%)	93(44.1%)
イ、6ヶ月程度	1	5	12	8	2		28(17.6%)	2		4	2	8(15.4%)	36(17.1%)
ウ、1ヶ年程度	4	3	14	5			26(16.4%)	1	2	2	1	6(11.5%)	32(15.2%)
エ、2ヶ年程度		1	6	3			10(6.3%)	1				1(1.5%)	11(5.2%)
オ、3ヶ年以上	1		10	2	2		15(9.4%)		1		1	2(3.8%)	17(8.1%)
未記入	2		4	3	1	1	11(6.9%)	3	1	1	6	11(21.6%)	22(10.3%)
合 計	12	15	75	37	13	7	159	17	7	13	15	52	211

職場での英語の慣れは3カ月以内が全体で44.1%と最も多く、1カ年程度でほぼ大部分のものが慣れている。職種的には「特殊技能工等」において比較的慣れがはやいようである。男女の差はない。

“慣れ”ということばの受け取り方に個人差もあり、一概に言うことは難しいが、6カ月で60%が、1カ年で75%以上が職場での英語に慣れている事は意外である。しかし、項目(4)、(6)より考え、日系企業に勤める者及び友人・知人の紹介による就職が多いということは、逆な見方をすれば、英語をあまり必要としない職場“語学の下手さ”には寛大な職場に勤めているものが多いということも、考えさせる必要があるのではなかろうか。また、永久に“慣れ”ることはないとする者もいる。

17. 移住する場合の英語力についてどう考えられますか。(職業別、性別)

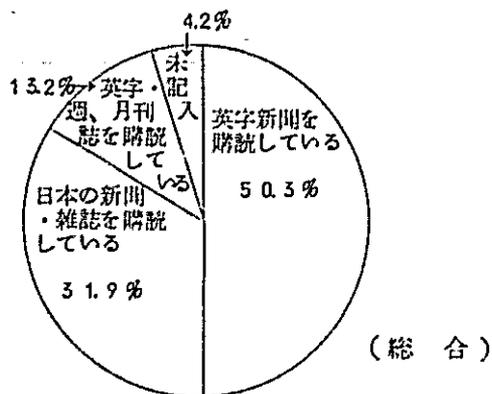


区分	性別		男 性					女 性					総 計			
	職業別		1	2	3	4	5	未記入	計	2	3	4		5	計	
ア、日本で徹底的にやるべきである			4	7	27	13	8	4	63(36.8%)	6	5	5	6	22(42.3%)	85(38.1%)	
イ、ある程度できればよい			8	8	29	14	4	1	64(37.4%)	4	1	5	7	17(32.7%)	81(36.3%)	
ウ、技術さえあれば語学に神経質になる必要はない					1	21	11	2	2	37(21.6%)	5	1	3	1	10(19.2%)	47(21.1%)
エ、その他			1			6			7(4.2%)	1		1	1	3(5.8%)	10(4.5%)	
合 計			13	16	85	38	14	7	171	16	7	14	15	52	223	

全体では「日本で徹底的にやるべきである」38.1%、「ある程度できればよい」36.3%、「技術さえあればよい」21.1%となっている。「徹底的にやるべきである」は男性では「事務系」、「サービス業」従事者に、女性では「専門的技術的職業」従事者に多く、逆に「技術さえあればよい」は男性では「専門的技術的職業」「特殊技能工等」に、女性では「事務系」、「特殊技能工等」に比較的その傾向が出ている。

各人の自分の技術を発揮するための語学の必要性の度合により、感じ方は異なるが、一般的には語学の必要性を強く感じているようである。また、数は少ないが、語学はカナダに来てから覚えた方がよいと考える者もいる。

18. 新聞・雑誌は何をお読みですか。 (在加年数、性別)

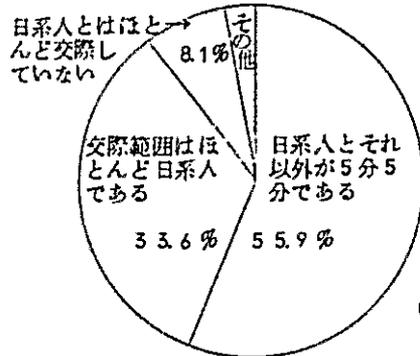


区分	性別		男性					女性					総計				
	職業別		7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?		1年?	1年未満	未記入	計
ア、英字新聞を購読している			11	37	30	22	13	1	114(51.4%)		8	9	8	6		31(47.0%)	145(50.3%)
イ、英字、週、月刊誌を購読している			6	8	6	5	1	2	28(12.6%)	1	5	2	2			10(15.2%)	38(13.2%)
ウ、日本の新聞、雑誌を購読している			6	17	18	18	10	1	70(31.5%)	1	6	5	6	1	3	22(33.0%)	92(31.9%)
エ、その他							1		1(0.4%)								1(0.4%)
未記入				1	4	3	1		9(4.1%)		1	1		1		3(4.8%)	12(4.2%)
合計			23	63	58	48	26	4	222	2	20	17	16	8	3	66	288

「英字新聞」購読が50.3%、続いて、「日本の新聞雑誌」が31.9%、併読しているものも多数いるようだ。男女別、在加年数には、あまり関係はない。

カナダにも邦字新聞が発行されており、日本の記事、日系人関係の記事が主に掲載されている。項目(2)でカナダで永住の意志があるものが多いにもかかわらず、依然として邦字新聞を読んでいるものが比較的多いということは、日本に対する郷愁等もあろうし、カナダ政府の奨励する多様化文化政策が影響を与えているのではなからうか。

19. あなたの交際範囲について (在加年数、性別)



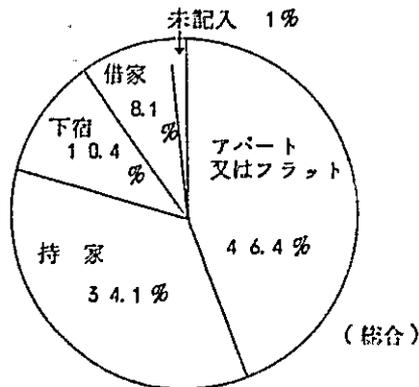
(総合)

区分	性別		男性					女性					総計			
	職業別		7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?		1年?	1年未満	未記入
ア、交際範囲はほとんど日系人である			4	20	11	10	7	52(32.7%)		5	5	6		3	19(36.5%)	71(33.6%)
イ、日系人とそれ以外が5分5分である			7	21	28	23	15	296(60.4%)		7	7	3	5		22(42.3%)	118(55.9%)
ウ、日系人とは、ほとんど交際していない			1	1	2	2	1	7(4.4%)	1		2	4	3		10(19.2%)	17(8.1%)
エ、その他						1	1	3(1.9%)			1				1(2.0%)	4(1.9%)
未記入								1(0.6%)								1(0.5%)
合計			12	42	42	36	24	3159	1	12	15	13	8	3	52	211

在加年数とはあまり関係なく、交際範囲は「日系人とそれ以外が5分5分である」が55.9%、「ほとんど日系人」が33.6%。

カナダ文化への溶け込みをみる一つの角度であろうが、在加年数と関係なく、ほとんど大部分の者がなんらかの形で日系人と付き合っているということである。このことからビジネスと余暇とをはっきりと区別し生活している姿勢がくみとれるが、半面、カナダ文化への溶け込みは容易ではないことがうかがわれる。やはり、気軽に日本語で雑談をしてみたいという気持は5~6年カナダに住んでいても長年の日本の生活はわすれられないものであろう。移住というものは、やはり、一世代以上の歳月を要するものなのであろう。

20. 現在の住まいについてお聞かせ下さい。 (在加年数、性別)



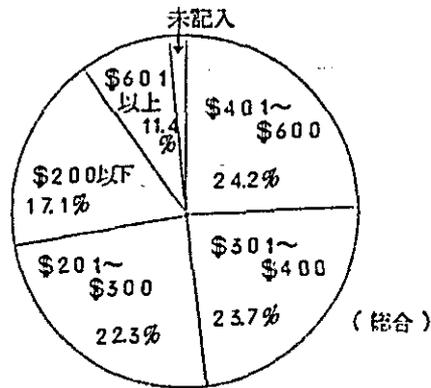
	未婚	既婚	計
ア、持家	3(4.1%)	69(49.6%)	72(34.1%)
イ、借家	2(2.8%)	15(10.8%)	17(8.1%)
ウ、アパート又はフラット	43(59.7%)	55(39.6%)	98(46.5%)
エ、下宿	22(30.6%)	—	22(10.4%)
未記入	2(2.8%)	—	2(0.9%)
合計	72	139	211

区分	性別		男性						女性						総計		
	職業別		7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満		未記入	計
ア、持家			12	26	15	5	1	1	60(37.7%)	1	5	2	2	1	1	12(23.1%)	72(34.1%)
イ、借家				5	4	5	2	1	17(10.7%)								17(8.1%)
ウ、アパート又はフラット				10	20	23	13	1	67(42.1%)	7	10	9	5		31(59.6%)	98(46.4%)	
エ、下宿				1	3	2	8		14(8.8%)		3	2	1	2	8(15.4%)	22(10.4%)	
未記入							1		1(0.7%)					1	1(1.9%)	2(1.0%)	
合計			12	42	42	26	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211

既婚者の場合は持家、続いてアパート、フラットの順。未婚者の場合はアパート、フラット、続いて下宿となっている。在加年数別では、年数が長くなるほど持家が多く、在加7年以上の場合には実に100%が持家となっている。

住居の事情は日本に比べ相当によい。既婚者の場合は持家、アパート、フラットで大部分をしめている。カナダでいうアパート、フラットとは日本でいうマンションを想定してもらえばよい。未婚者の場合はアパート、フラット、下宿で大勢をしめているが、特に在加1年未満の単身に下宿が多いのは、金額が安いという面もあるが、まず移住頭初は語学の勉強をし、カナダ社会へ溶け込む努力の程がうかがわれる。持家の購入価格は\$20,000~30,000が最も多く、(但し、購入時期は2~3年前にローン利用者が多い)、アパート、フラットの家賃は\$130~150ぐらいとなっている。

21. 1ヶ月の生活費はどの位かかりますか。(未・既婚、性別)



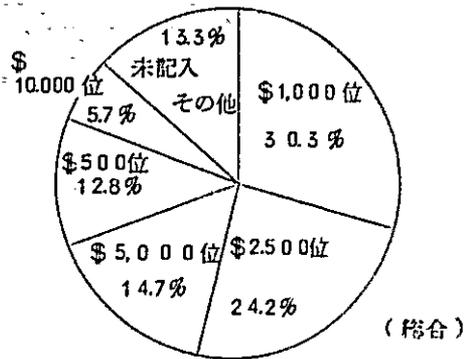
区分	性別		男性		女性		総計	未・既婚別	
	取組別		計		計			未婚	既婚
	未婚	既婚	未婚	既婚	未婚	既婚			
ア、\$200以下	23	1	24 (15.1%)	11	1	12 (23.1%)	36 (17.1%)	34 (47.2%)	2 (1.4%)
イ、\$201~\$300	13	15	28 (17.6%)	14	5	19 (36.5%)	47 (22.3%)	27 (37.5%)	20 (14.4%)
ウ、\$301~\$400	5	31	36 (22.6%)	3	11	14 (26.9%)	50 (23.7%)	8 (11.1%)	42 (30.2%)
エ、\$401~\$600	1	45	46 (28.9%)	1	4	5 (9.6%)	51 (24.2%)	2 (2.8%)	49 (35.9%)
オ、\$601以上		23	23 (14.5%)		1	1 (1.8%)	24 (11.4%)		24 (17.3%)
未記入		2	2 (1.3%)		1	1 (1.8%)	3 (1.3%)	1 (1.4%)	2 (1.4%)
小計	42	117		30	22			72	139
合計			159			52	211	211	

未婚の場合は\$300以下が85%をしめ、既婚の場合は\$300~600が65.5%をしめている。

カナダの物価は現在の日本とあまり変りがない訳であるが生活費には相当費しているようである。

やはり、日本に比べ豊かな生活を過しているカナダの生活レベルの高さをもの語っている。

22. 現在、貯蓄はどの位おありですか。 (在加年数、性別)

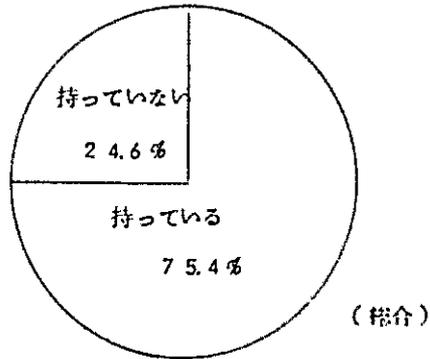


区分	性別		男性						女性						総計	
	職業別	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入	計	7年以上	5年	3年	1年	1年未満	未記入		計
ア、\$500位		2	5	4	8	4		23(14.5%)		1	2	1		4(7.7%)	27(12.8%)	
イ、\$1,000位		1	11	9	12	10	1	44(27.7%)		4	7	4	4	1	20(38.5%)	64(30.3%)
ウ、\$2,500位		3	7	10	9	7	1	37(23.3%)		3	5	5	1		14(26.9%)	51(24.2%)
エ、\$5,000位		2	7	11	4	2		26(16.4%)		1	2		2		5(9.6%)	31(14.7%)
オ、\$10,000位		2	4	3				9(5.7%)	1	1		1			3(5.6%)	12(5.7%)
カ、その他			1	1				2(1.3%)								2(0.9%)
未記入		2	7	4	3	1	1	18(11.3%)		2	1	1	2		6(11.5%)	24(11.4%)
合計		12	42	42	36	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211

貯蓄額は在加年数により若干増えているようだが、単に数字の上では顕著な伸びはない。\$2,000前後が一番多い。

収入面より考え、貯蓄が少ないように思えるが、一つには在加年数が短いこともあり、ある程度貯蓄がたまれば「持家」、「自動車の購入」及び「日本への一時帰国」ということも影響しているのではないだろうか。また、カナダ人の生活の仕方=生活をエンジョイするという生き方で相当、レクリエーション費にお金を費やしていることも考えられる。

23. 自動車をお持ちですか。 (在加年数、性別)

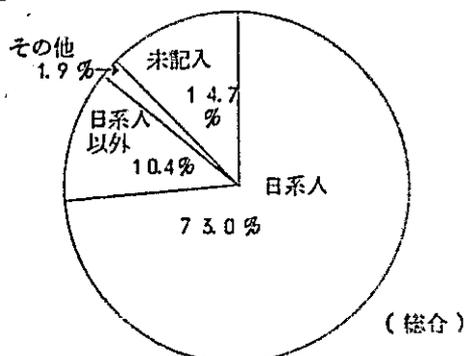


職業別 区分	男性							女性						総計	
	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入		計
ア、持っている	11	39	39	33	10	3	135(84.9%)	1	6	7	4	3	3	24(46.2%)	159(75.4%)
イ、持っていない 持したい	1	3	3	3	14		24(15.1%)		6	8	9	5		28(53.8%)	52(24.6%)
持つ必要なし		1	1	2	2	9	15		3	4	4	3		14	29
未記入		2	1		4		7		3	2	4	1		10	17
合計				1	1		2			2	1	1		4	6
合計	12	42	42	36	24	3	159	1	12	15	13	8	3	52	211

全体で75.6%、男性では実に84.9%が車を持っている。在加1年経てば、大部分の者が車を持つようである。一方、「車を持つ必要なし」はわずか8%と少ない。

広大な国土であり、しかも日本のように交通機関網も発達しておらず、また自動車を利用することを前提にした都市設計がなされているカナダにあつては自動車は必需品ということがいえる。したがってある程度生活が安定すればまず自動車の購入という具合になるのであろう。また中古車の場合は日本に比べ購入しやすい金額でもある。

24. 結婚の相手には、日系人を選びますか。 (未既婚別、性別)



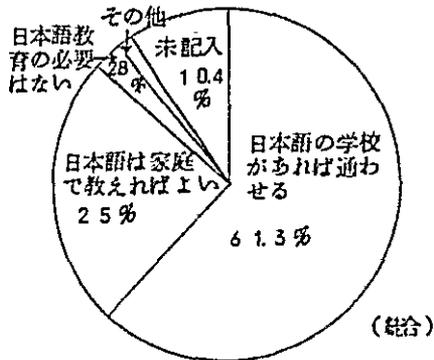
区分	性別		計	性別		計	
	男	女		男	女		
ア、日系人	27	111	138 (86.8%)	6	10	16 (30.8%)	154 (73.0%)
a、日本から呼ぶ	21	51	72 (52.2%)	2		2 (12.5%)	74 (48.1%)
b、日系移住者	1	26	27 (19.6%)	2	2	4 (25.0%)	31 (20.1%)
c、二世、三世	2	4	6 (4.3%)		7	7 (43.6%)	13 (8.4%)
未記入	3	30	33 (23.9%)	2	1	3 (18.9%)	36 (23.4%)
イ、日系人以外	4	2	6 (3.8%)	6	10	16 (30.8%)	22 (10.4%)
ム、その他					4	4 (7.7%)	4 (1.9%)
未記入	11	4	15 (9.4%)	14	2	16 (30.8%)	31 (14.7%)
合計	42	117	159	30	22	52	211

日系人が圧倒的に多く、特に男性の場合にその傾向が強い。女性に日系人以外が30.8%と比較的多くなっている。

やはり、日系人との結婚を希望する者が圧倒的に多いということは、邦字新聞の購読、日系人とのつき合い等より、さらに進んだ赤裸々な個々人の生活の姿勢がうかがわれる。日系人との結婚を希望する中でも、男性の場合、「日本から呼ぶ」が過半数をしめ、二世、三世はきわめて少なく、女性の場合は逆に二世、三世の男性との結婚を希望する者が多くなり、「日本から呼ぶ」は少ない。こういう点からしても、独身の男性の場合は、渡加する時点で結婚の相手を決めておく事が賢明であろう。

総じていえば、男性の場合は、日本の女性との結婚を望み、女性の場合は、二世、三世及び日系人以外の男性を伴侶とする傾向がある。これは男性と女性との環境に対する順応性の違いにも関係しているのではあるまいか。女性の場合は「その他」、「未記入」の項が多いところから察すれば結婚を考えていない者も多いようである。女性の既婚者(日系人以外)の相手はカナダ系が最も多く、次いでドイツ、フランス、イギリス、ラテン系人種となっている。

25. 子供の日本語教育についてのお考え。(在加年数、性別)

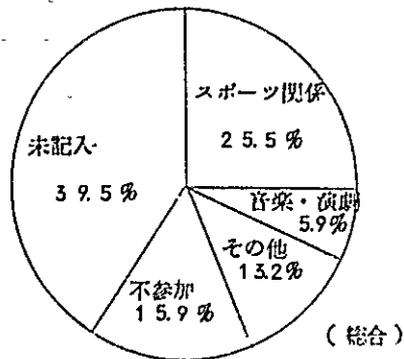


区分	性別		男 性							女 性							総 計
	職 業 別	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計		
																職 業 別	
ア、日本語教育の必要はない								5 (3.1%)		1					1 (1.9%)	6 (2.8%)	
イ、日本語は家庭で教えればよい		1	7	7	11	8	1	35 (21.9%)	1	3	7	4	3		18 (34.6%)	53 (25.0%)	
ウ、日本語の学校があれば通わせたい		10	31	32	31	9	3	106 (66.3%)	6	5	7	3	3		24 (46.2%)	130 (61.3%)	
エ、その他						1		1 (0.6%)								1 (0.5%)	
未記入		1	3	2	2	5		13 (8.1%)		2	3	2	2		9 (17.3%)	22 (10.4%)	
合 計		12	42	42	36	24	4	160	1	12	15	13	8	3	22	212	

大多数の者が子弟に対する日本語教育の必要性を感じており、特に在加1年以上の者に強くその傾向が現われている。

在加1年以上の者にこの傾向が強いということは、ある程度カナダの生活にも慣れた時点で、日本の文化の良さをみなおすということ、「日本人」には英語のほか日本語も教えたいとする親の心境、そして、カナダ政府の多様化文化の奨励等がからんでいるのではなからうか。日本語教育は絶対に必要だとする強い意見もある。

26. スポーツ趣味などのグループに参加されていますか。(在加年数、性別)



区分	性別		男 性						女 性						総 計	
	職業別	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入	計	7年以上	5年?	3年?	1年?	1年未満	未記入		計
ア、スポーツ関係	1	12	16	10	4	1	44(27.0%)	1	1	7	2	1	12(21.1%)	56(25.5%)		
イ、音楽・演劇等	1	6		3			10(6.1%)		1			1	3(5.3%)	13(5.9%)		
ウ、その他	3	10	6	3			22(13.5%)	2	2	2	1		7(12.3%)	29(13.2%)		
エ、参加していない	4	4	3	4	9		24(14.7%)	4	3	3		1	11(19.3%)	35(15.9%)		
未 記 入	4	10	20	17	10	2	63(38.7%)	5	5	7	6	1	24(42.1%)	87(39.5%)		
合 計	13	42	45	37	23	3	163	1	13	17	14	9	3	57	220	

在加1年未満及び7年以上の者に参加していない者が比較的多い。

なんらかのグループに参加している者は全体で30%強。特に在加1～7年の者が多い。しかし、「未記入」が40%もいるということは、さほどグループ活動に興味もないし、その必要性も感じていない者が多いということであろう。グループの種類は柔道、空手、囲碁、将棋、生花、お茶等の参加者が多い。

## 27. 移住の動機

主な移住の動機を男女別でみると、

### <男 性>

- ア、日本の職場に不満（年功序列、雇用関係）
- イ、自分自身の力をためしたい（技術等）
- ウ、日本の将来に希望がなく、カナダの豊かさの中で生活するため
- エ、人生経験のため
- オ、留学後、現地に就職

### <女 性>

- ア、結婚のため
- イ、子供の将来のため
- ウ、英語の勉強のため

以上が主な移住の動機であるが、これらはあくまで理念型としてのそれであり、実際には、もっとどろどろとした複雑で、言葉では表現しきれない部分も多い事であろう。

一般的に言えそうなことは、男性の場合はほとんどの者が何らかの意味で前向きに移住と取り組んでいるようであるが、女性の場合は周囲の環境により移住するケースが多いようだ。観光で入国、その後永住ビザを取得した者もなかにはいるようだ。

## 28. カナダ人の印象

日本のように単民族国家でないカナダにあつては、「カナダ人」のとりえ方は難しいようでこの設問に対するとまどいが多くの人からうかがわれる。この場合の「カナダ人」とは一口で言ってしまえば、白系移住者としてとらえているようであり、日系カナダ人、中国系カナダ人等の有色人種については、また違った感じ方をしている様である。

多くの者が感じている「カナダ人」とは、“フランクで好感が持て親切である”と“一見親切であるが、それは表面的なことであり、実は個人主義的で冷たい”に大別できそうである。また違った角度からでは“保守的”、“非常にスマートな人とダメな人とが極端である”、“他人の生活に干渉しない”と感じる者も多いよう

た。一般的には“親切で好感が持てる”と感じる者が多数である。

## 29. 移住希望者へのアドバイス

この設問については、詳しく、丁寧に記述してくれた者が多く、後輩移住希望者に対する暖かい思いやりと、自分達が踏んで来た移住後の厳しい生活の様子と、裏を返せば自分達の反省事項等、いつわらざる気持(苦勞談)が述べられているようだ。

主なものを挙げると、(1)語学をマスターしてくること、(2)人にまけない技術力を身につけて来ること、(3)外国に対するあこがれで移住するのではなく、はっきりとした目的を持って移住すること、(4)永住の覚悟で来ること、(5)未婚の男性の場合は結婚相手を決めて来ること、(6)年配者はある程度資金を多く持って来ること、(8)既婚者の場合は頭初単身で渡加し、落ち着いてから家族を呼び寄せること等が挙げられる。

これらはすべて体験的に述べられているものであろうから、各人の環境や状況の差のようなもので多少その感じ方に差異が出るであろうが、これらのことが守られない場合は、移住後、失望したり、苦勞したりする場合も大きくなると言えるのではないだろうか。特に語学と技術力については、カナダに行ってから勉強すればなんとかなるといった容易な考え方ではダメで日本でやれる範囲、精一杯やって来るべきであると力説している。

## 3. 調査結果の考察

### (1) 設問における例外的事例

ア、設問 1. カナダに移住して来てよかったと思うか。

エ、失敗であった(0.9%)— 男性2名

カナダ農業移住訓練生として渡加し、契約途中で脱耕、近郊都市で働いている者、及び電気製品のサービスマンであり、移住の動機は専門技術の勉強のためとする者の2名。

イ、設問 8. 現在の収入は月額にしどの位ですか。

ア、\$300以下(4.3%)— 男性2名、女性7名。

主婦、次いで学生が多い。その他美容師見習い、ウェイトレス、店員、失業中の者。

ウ、設問 10. カナダに来てから今までに何度職場をかわったか。

エ、6回以上— 男性4名、女性2名

女性2名はたいした技術なく、転職するたびに職種を変えている。男性の場合は溶接工、医師、機械据付け工、自動車整備士である。これらは、概ね転職のたびに就労条件がよくなっており、4名中3名は独立希望、内1名は独立済の者である。

エ、設問 11. 現在の仕事に就いた時、前の仕事と比べていかがですか。

ウ、前より条件は悪くなった(2.8%)— 男性5名、女性1名

事務員が4名、他はコック、尺八教授、この内3名は日系企業に勤めている。

オ、設問 19. あなたの交際範囲は。

ウ、日系人とはほとんど交際していない(8.1%)— 男性7名、女性10名。

5名は主婦(配偶者は日系人以外)、3名は英語が流暢。その他、居住地近郊に日系人がいない者。日系人との交際は気を使い、カナダの個人主義的などころが良いとする者。

## (2) 調査結果からみたB.C.州移住者とオンタリオ州移住者の差異点と類似点

### ア、調査対象者の傾向

(ア) B.C.州移住者とオンタリオ州移住者の男女の構成比率はほぼ同率の4:1。

(イ) B.C.州移住者に既婚者が多く、オンタリオ州移住者に未婚者が多い。

(ウ) B.C.州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ若干、在加年数が長い。

(エ) B.C.州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ若干学歴は低い。

### イ、B.C.州移住者とオンタリオ州移住者の差異点

B.C.州移住者                      オンタリオ州移住者

#### (ア) カナダに移住して

よかった	71.0%	60.0%
普通	13.3%	20.6%
まだわからない	15.2%	17.7%
失敗	0.9%	1.6%

(イ) 永住の意志

帰化する	4 0.0 %	2 5.0 %
帰化せず永住する	1 5.6 %	1 2.9 %
わからない	3 5.5 %	4 6.0 %
永住の意志はない	8 1 %	1 6.1 %

(ウ) 仕事関係

A、現在の勤務先

外国系企業	5 3.6 %	6 4.9 %
日系企業	2 1.3 %	1 7.3 %
自 営	1 2.8 %	8 1 %

B、職場での英語の慣れ

3 カ月以上	4 4.1 %	3 0.2 %
6 カ月程度	1 7.1 %	2 2.2 %
1 カ年程度	1 5.2 %	1 8.5 %
2 カ年以上	1 3.3 %	1 7.0 %

(エ) 生活状態

A、現在の住宅

アパート・フラット	4 6.4 %	5 6.5 %
持 家	3 4.1 %	1 4.1 %
借 家	8 1 %	5 1 %
下 宿	1 0.4 %	2 1.8 %

B、1カ月の生活費

\$ 2 0 0 以下	1 7.1 %	2 4.1 %
\$ 2 0 1 ~ 3 0 0	2 2.3 %	2 5.3 %
\$ 3 0 1 ~ 4 0 0	2 3.7 %	2 0.4 %
\$ 4 0 0 ~ 6 0 0	2 4.2 %	1 9.6 %
\$ 6 0 1 以上	1 1.4 %	9 8 %

C、自動車		
持っている	7 5.6 %	6 4.1 %
持っていない	2 4.4 %	3 5.9 %
(オ) 結婚の相手		
日 系 人	7 3.0 %	6 5.4 %
日系人以外	1 0.4 %	1 2.9 %
(カ) 子供の日本語教育		
日本語学校に通わせる	6 1.3 %	4 8.6 %
家庭で教えればよい	2 5.0 %	3 1.9 %

B・C州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ、移住してよかったと考える者が多く、帰化して永住すると考える者も多い。

仕事の面ではオンタリオ州移住者に外国系企業に勤める者が多く、逆に日系企業及び自営はB・C州移住者に多い。またB・C州移住者の方が渡加後、早期に就職先を見つけている。しかし、このことは一概にB・C州の方が労働需要が豊かであるという訳ではない。

一つには、B・C州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ、渡加時期が早期であったという傾向に起因している。つまり、渡加時期におけるカナダの経済状態（景気の良し悪し）に関係しているものと思われる。二つには就職先の見つけ方の違いである。つまり、B・C州移住者の場合は知人・友人の紹介で仕事を見つける者が多く、オンタリオ州移住者の場合は新聞広告及びマンパワーセンターの紹介で仕事を見つける者が比較的多いことに関係しているものと思われる。三つには移住頭初はまずバンクーバー（B・C州）に滞在し、そこで求職活動をし、希望の職がない場合はトロント（オンタリオ州）に向うといったケースが多々あることも起因しているのではないだろうか。

自営を希望する者もB・C州移住者に多い。このことは収入の面、在加年数の差等、様々な環境の差からくるものであろうが、その中でも、特にオンタリオ州に比べ、B・C州の場合はまだまだ経済的に後進性が残っており、自営の可能性も、オンタリオ州に比べ高いということであろう。

収入の面ではB・C州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ収入が高い。こ

これは調査時期に1年のズレがあること、B・C州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ在加年数が長いこと、及び一般的にB・C州の方がオンタリオ州より、給与水準が高いということ等に起因しているものと思われる。生活費の面から見てもやはり、B・C州移住者の方がより多く生活費をかけている。物価との関係もあり、一概にはいえないだろうがB・C州移住者の方がより豊かな生活をおくっているといえそうである。住宅事情をみても「持家」の率はB・C州移住者が高く、自家用自動車購入率も高い。「持家」率の差は家の購入価格の差(B・C州の方が安い)に起因し、自動車の差は「交通網の発達」の差よりくる自動車の必要性の度合の差の一つの原因でもあろう。

その他の項目での相異点は、オンタリオ州移住者に比べB・C州移住者に結婚の相手として「日系人」を好む率が高く、子弟に対する日本語教育の必要性を積極的に感じる者も多くなっている。

総じていえば、調査対象者の質的な相違もあり、調査時期に1年のズレもあり、一概に決めつけることは危険であるが、B・C州移住者の方がオンタリオ州移住者に比べ、経済的にはより豊かな生活をしているといえそうだ。このあたりがたいした産業もないB・C州にオンタリオ州について2番目に多く日系人が住みついている一つの原因でもある。

#### ウ、B・C州移住者とオンタリオ州移住者の類似点

##### (ア) 仕事関係

###### A、仕事に対する満足度

現職に満足している	40～45%
語学のハンディがある	20%
希望の職につけない	20%

###### B、職場での人間関係

気持よくやっている	40～45%
普通	40%
人種差別がある	4～5%

C、転職の経歴

転職の経歴なし	30～40%
1～3回	50～55%
4～5回	7～8%

(イ) 語学関係

A、日常生活での語学

不自由ない	50%
ほとんど不自由ない	30%
不自由で学校へ通っている	20%

B、移住する場合の語学

日本で徹底的にやる必要がある	40%弱
ある程度出来ればよい	40%弱
技術さえあればよい	20%

(ウ) その他

A、新聞・雑誌の種類

英文新聞・雑誌を購読	65～70%
邦文新聞・雑誌を購読	30%強

B、交際範囲

日本人とばかり	30%
日本人と外人は5分5分	55%
日本人とは交際なし	10%弱

C、貯蓄額

\$500～1,000位	40%
\$2,500～5,000位	35%
\$10,000位	5～10%

#### 4. 結 び

カナダ移住の大綱はアンスポンサード方式の移住であり、したがって渡加後の各移住者の動態を把握することはきわめて難しいことである。

しかし、カナダ移住業務を推進しようとする以上、我々はカナダにおける日本人移住者の生活ぶりを的確に把握しておかなければならない。

そういう意味で昨年に引き続き本年度はB・C州在住の日本人移住者に対する動態調査を実施した訳である。調査方法はアンケート方式による無作為抽出方法をとったが、移住者の現住所さえ正確に把握出来ない現状にあって、まず第一に問題になったのは移住者の現住所を少しでも数多く蒐集、確認することであった。しかも幅広い階層からの抽出に力を注いだが、この点については十分抽出しきれなかったといえるかもしれない。(抽出源をご参照願いたい。)

昨年度実施したオンタリオ州における調査と今回のB 州における調査対象者を比較すると今回の調査では既婚者が圧倒的に多かったということであろう。これは調査の感触から察すれば、

1. オンタリオ在住移住者に比し結婚年齢が早い。(渡加時期の年齢がオンタリオ州移住者に比し若い。)
2. 独身者でも移住後4～5年後には住居を購入するのが普通であり、結婚し易い条件が整う。(住宅価格はオンタリオ州より安い。)
3. 持家の妻帯者は独身者ほどひんぱんに移転は行なわず、居所が安定している上、アンケート調査に応じやすい。等の事由にもとづくものと思われる。

これらのことから今回のアンケート回答者の構成比率(男女比率、未・既婚者率等)はストレートに日本人カナダ移住者のそれであるとはいいきれないということをお含み置きいただきたい。

本動態調査の拠点あるいは実施単位となり得た抽出源の各グループの中で最も精神的結合が強く相互連絡がひんぱんであったグループは当事業団が渡航前にカナダ移住者を対象にして行なっている“トレーニング・コース”受講者のいわゆる“同期”のつながりであった。渡加後も連絡を取り合い、情報交換をしたり、お互にはげまし合っていることがうかがわれる。次いで現に活動中のスポーツ、趣味関係のグル

ープ、その他、一定人物を核とする交友グループが挙げられる。逆に新移住者会、及至は日系人会という一見包括的な名における移住者リストは移転先不明の者が相当多数含まれており、その内部の結合がきわめてゆるやかであることを示している。また総領事館等への諸届出義務も完全履行からはほど遠い現状にあり、この公的資料からの動向把握は予想した通り全体の一部にとどまざるを得なかった。

このような点から考え、国内各支部においては各移住者に出来るだけ多く「トレーニング・コース」を受講するよう呼びかけると共に渡加後は最低限、在留届の提出をまもるよう指導されたい。

本アンケートの各設問中、仕事の見つけ方（設問6）は回答の仕方を明示していく、所得額（設問8）は税込みなのかどうか及び所得水準の向上に伴い月収区分の上限を引き上げた方がよい、貯蓄額（設問22）は保有流動資産全額を問う方がよいのではないか、結婚の相手（設問24）は未婚者を対象にした設問なのか、どうか不明等、種々の不備、不明瞭な設問項目もあったが、今回の調査は昨年度実施したオンタリオ州移住者動態調査と比較、検討しやすくするため、あえて前回同様のアンケート様式を用いた訳であり、この点、お含み置きいただいた上、研究、活用されたい。なお、来年度以降も引き続き、平原三州、ケベック州の地域において動態調査を実施していく計画である。今後さらに総合的な日本人カナダ移住者の動態が明らかになるであろうし、都市部と農村部との地域差による移住者の経済状態、意識の相違等、顕著な傾向も明らかになるのではないだろうか。

カナダ移住者動態調査票

調査年月日	年 月 日			
氏 名			男・女	既婚・未婚
生年月日	年 月 日	入国年月日	年 月	
住 所	TEL			
現在の職種			日本での職種	
最終学歴	大学・短大・高校・中学・その他		卒業・中退	
出身県			国籍	
家族構成 (渡航時家族員数 名)				
氏 名	年 令	性 別	続 柄	職 業
		男・女	本 人	
		男・女		

〔本調査票のご記入について〕

1. 本調査は海外移住事業団が日本人移住者の皆様がカナダ社会に適応してゆかれる過程で直面された問題や現在皆様がかかえておられる問題等を把握し、これからの移住政策に反映させることを目的に行なうものであります。
2. プライベートに立ち入りすぎる設問もあるかと存じますが秘密は厳守致します。どうしてもお名前をお聞かせ願えない場合も、男女別、入国年月日、職種、学歴、未婚既婚別の欄は御記入下さる様お願い致します。
3. アンケートには該当するものに○をおつけ下さい。  
又、記述していただく場合は簡潔にお答え下さい。
4. ご多忙中まことに恐縮ですが宜しくご協力お願いします。

海外移住事業団

ア ン ケ ー ト

1. カナダに移住して来てよかったと思いますか。
  - ア、よかったと思う
  - イ、普通
  - ウ、まだわからない
  - エ、失敗であった
  
2. カナダに永住する希望がありますか。
  - ア、帰化して永住する
  - イ、帰化せずに永住する
  - ウ、わからない
  - エ、永住の意志はない
  
3. 渡航時の携行金はどの位でしたか。
  - ア、\$ 500 以下
  - イ、\$ 501 ~ \$ 1,000
  - ウ、\$ 1,001 ~ \$ 2,000
  - エ、\$ 2,001 以上
  
4. 現在の勤務先について
  - ア、外国系企業
  - イ、日系企業
  - ウ、自 営
  
5. カナダで最初の仕事につくまでどの位かかりましたか。
  - ア、2週間以内
  - イ、1ヶ月以内
  - ウ、2ヶ月以内
  - エ、2ヶ月以上

6. 仕事はどの様にして見つけられましたか。

ア、Manpower Center の紹介

(最初の仕事) (現在の仕事)

イ、新聞広告

ウ、直接電話や訪問して

エ、知人・友人の紹介

オ、私設職業あっせん所の紹介

カ、その他

	(最初の仕事)	(現在の仕事)

7. 現在の仕事に満足しておられますか。

ア、自分の能力が十分に発揮出来満足している

イ、希望する仕事であるが語学のハンディ等で能力が発揮出来ないでいる

ウ、希望する仕事につけないでいる

エ、自分の希望する仕事につけそうになく大いに不満である

8. 現在の収入は月額にしてどの位ですか。

(1) ア、\$ 300 以下

イ、\$ 301 ~ \$ 450

ウ、\$ 451 ~ \$ 600

エ、\$ 601 ~ \$ 800

オ、\$ 801 以上

(2) ア、満足している

イ、普通

ウ、満足していない

9. 職場での人間関係はいかがですか。
- ア、気持よく仕事をしている
  - イ、普通である
  - ウ、人種差別があるように思う
  - エ、その他( )
10. カナダに来てから今までに何度職場をかわりましたか。
- ア、転職の経験はない
  - イ、1～3回
  - ウ、4～5回
  - エ、6回以上
11. 現在の仕事につかれたとき、前の仕事と比べいかがでしたか。
- ア、収入や就労条件がよくなった
  - イ、前と大差はないように思う
  - ウ、前より条件が悪くなった
12. 将来、独立の計画はありますか。
- ア、あります
 

	具体的取種名
a、農 業	( )
b、工 業	( )
c、商 業	( )
d、サービス業	( )
e、そ の 他	( )
  - イ、わからない
  - ウ、ありません

13. 現在、独立するとして何が一番問題になりそうですか。
- ア、資金不足
  - イ、カナダでの信用不足
  - ウ、カナダのこの方面での情報不足
  - エ、その他 ( )
14. 今後カナダで取得したい資格、免許は何ですか。  
(学校の卒業等を含めて)
15. 生活で英語の不自由は感じますか。
- ア、ほとんど感じない
  - イ、日常生活には不自由はない
  - ウ、不自由で学校に通っている(又は通いたい)
16. 取場での英語に慣れるまでどの位かかりましたか。
- ア、3ヶ月以内
  - イ、6ヶ月程度
  - ウ、1ケ年程度
  - エ、2ケ年程度
  - オ、3ケ年以上
17. 移住する場合の英語力についてどう考えられますか。
- ア、日本で徹底的にやるべきである
  - イ、ある程度出来ればよい
  - ウ、技術さえあれば語学に神経質になる必要はない
  - エ、その他 ( )



22. 現在貯蓄はどの位おありですか。
- ア、\$ 500 位
  - イ、\$ 1,000 位
  - ウ、\$ 2,500 位
  - エ、\$ 5,000 位
  - オ、\$ 10,000 位
23. 自動車をお持ちですか。
- ア、持っている（新車・中古車）
  - イ、持っていない（持ちたい。持つ必要なし）
24. 結婚の相手には日系人を選びますか。  
（既婚の方は現在の配偶者についてお答え下さい）
- ア、日系人
    - a、日本から呼ぶ
    - b、日系移住者
    - c、二世、三世
  - イ、日系人以外（                      系）
25. 子供の日本語教育についてのお考えは。
- ア、日本語教育の必要はない
  - イ、日本語は家庭で教えればよい
  - ウ、日本語の学校があれば通わせたい
26. スポーツ・趣味などのグループに参加されていますか。
- ア、スポーツ関係（                      ）
  - イ、音楽・演劇等（                      ）
  - ウ、その他（                      ）

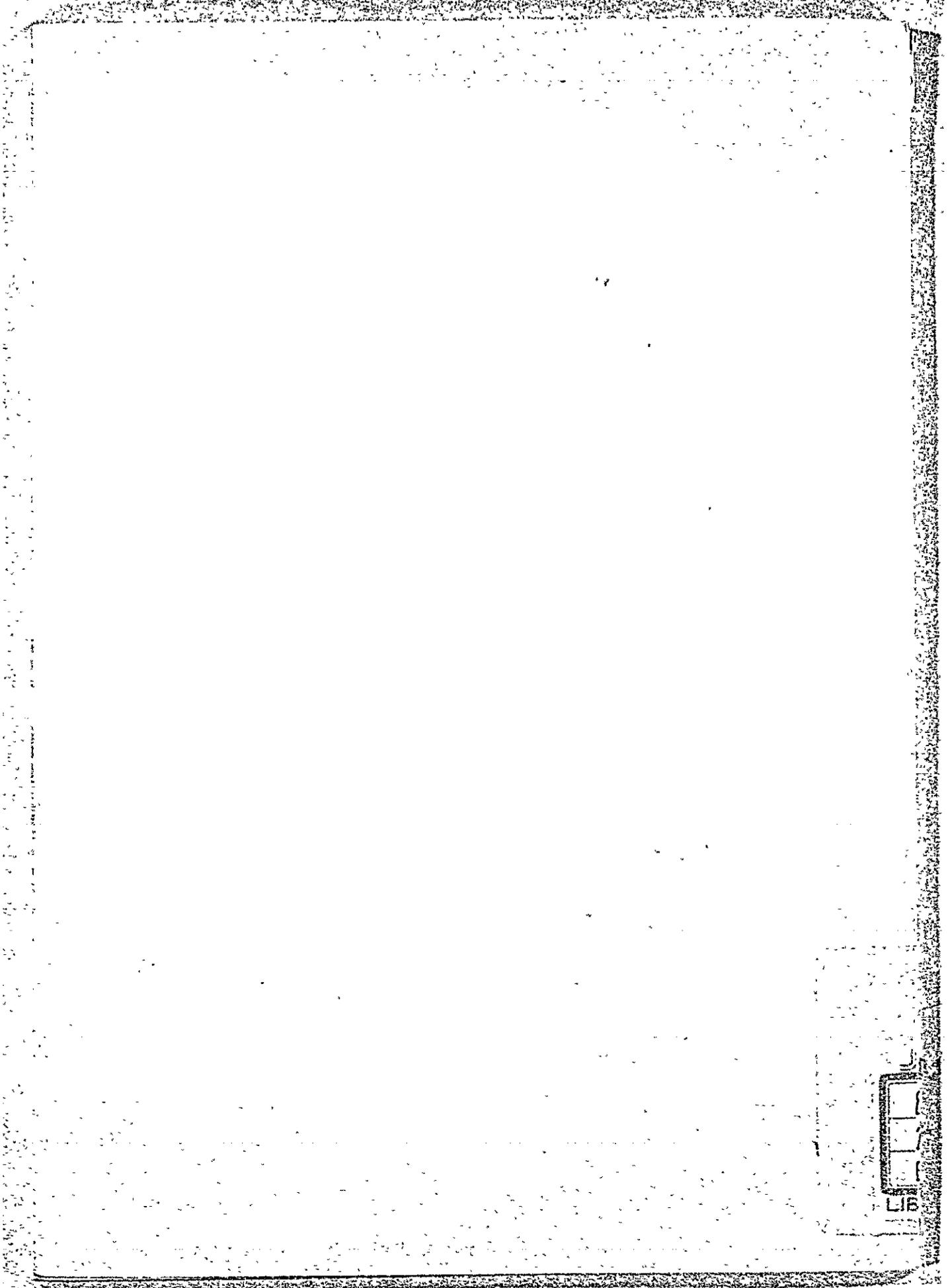
27. 移住の動機について簡単にお書き下さい。

28. カナダ人に対するあなたの印象をお書き下さい。

29. 移住希望者に対してのアドバイスをお願いします。

☆どうも長時間にわたり御協力ありがとうございました。

この貴重な資料を私共の仕事に充分活用させていただきます。



LIB